小・中9年間をつないで取り組む学力向上

■研究指定・委嘱地域(校)
直方市教育委員会（直方南小学校・直方北小学校・直方西小学校・直方第三中学校）
広川町教育委員会（中広川小学校・広川中学校）

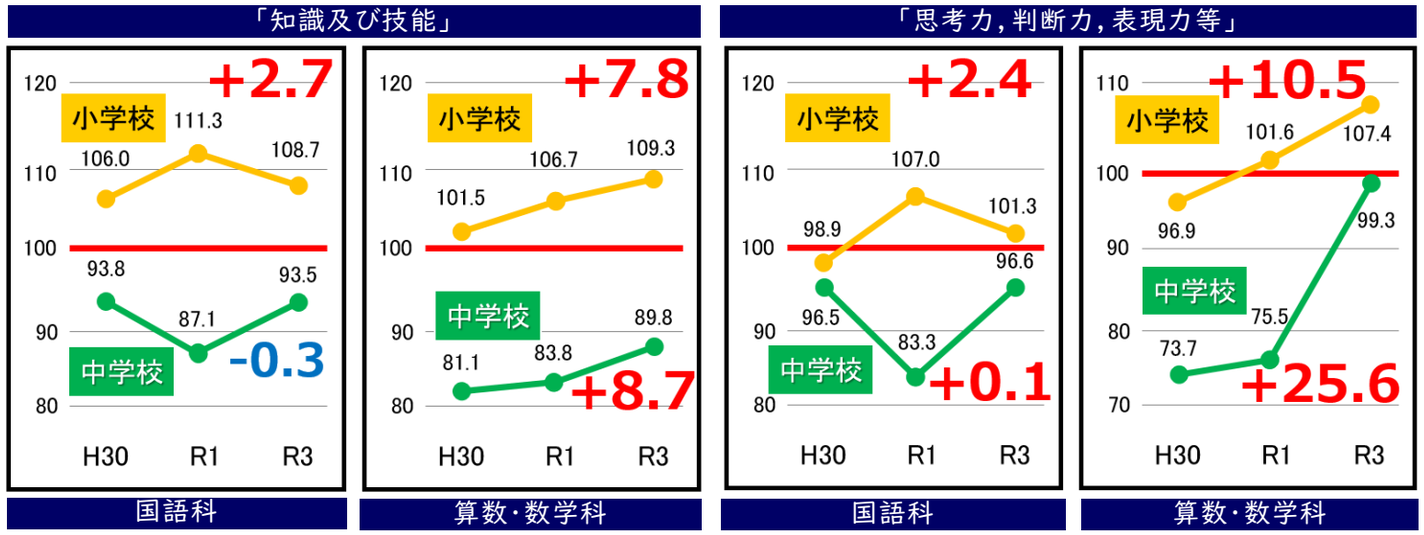
研究の目標　小・中連携による学力向上に向けた推進体制を構築することで、9年間を見通した学力向上方策の在り方を究明する。

研究の内容
- 視点1：育てたい資質・能力の育成を目指す9年間のカリキュラム・マネジメント
- 視点2：小・中連携による学力向上の推進体制づくり

研究の成果（3年間の研究による変容）

◆ 直方市の成果

○ 全国学力・学習状況調査の「知識及び技能」、「思考力，判断力，表現力等」等の各観点を標準化得点で見ると、**研究前年度（平成30年度）から令和3年度にかけて大きく伸びており**、学力向上が図られました。

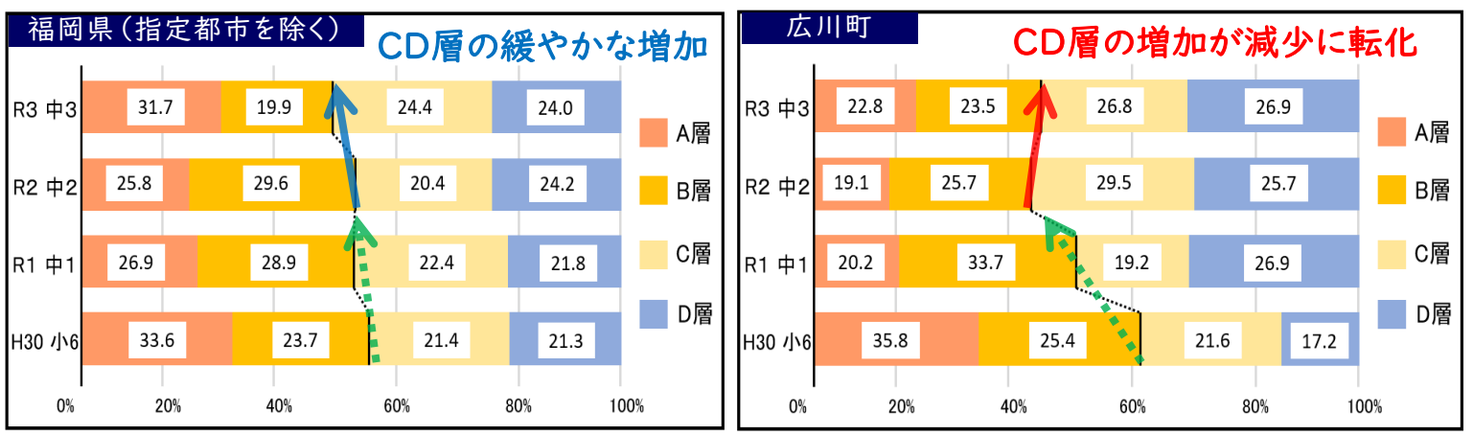


【全国学力・学習状況調査「知識及び技能」（左）、「思考力，判断力，表現力等」（右）に関わる問題の標準化得点】（令和2年度は調査未実施）

◆ 広川町の成果

○ 同一集団の四分位層の推移（算数・数学）を全国学力・学習状況調査（小6時、中3時）、福岡県学力調査（中1時、中2時）をもとに、福岡県全体と広川町を比較すると、**CD層の割合が、福岡県全体の増加傾向に対して広川町では減少に転じ**、特に、CD層の学力向上が図られました。

同一集団の四分位層の推移（算数・数学）



【全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生）　福岡県学力調査（中学校1年生、2年生）　結果】

おすすめポイント

◆ 直方市の研究のポイント

小・中連携しながらカリキュラム・マネジメントを進めていくに当たって、育成を目指す資質・能力の整理の仕方や具体的な授業づくりのポイントはどんなことですか？

「何を学ぶか」を大切にした教科間、校種間のつながりを重視した重点単元（ジョイント・カリキュラム）を設定し、目指す資質・能力・態度を意識しながら授業の質的な向上を図ることがポイントです。　【研究の実際「視点1」を参照】

小・中連携による学力向上を推進するための組織が機能するにはどうしたらよいですか？

推進委員会で決定した事項について、全職員の共通理解と「カリキュラム部」「授業づくり部」等の4部会による迅速な検証を行い、中学校区の教職員で状況理解を大切にしながら改善を図りましょう。　【研究の実際「視点2」を参照】

◆ 広川町の研究のポイント

「振り返り」を学習に位置付けてはいますが、効果を感じられません。どんなタイミングで振り返りを位置付ければよいですか。また、定着のポイントはどんなことですか？

学習における自分の成長を自覚し、意欲を喚起するために、単元末と一単位時間の終末に振り返りを位置付けます。児童生徒の発達段階を意識しながら振り返りのモデルを示すと効果的です。　【研究の実際「視点1」を参照】

学力向上において、小・中で連携しながら組織的に取組を推進する上でのポイントは何ですか？

学力向上に係る小・中連携の組織をつくり取組を徹底します。特に、日常化できる児童生徒の学習活動レベルで具体化し、「検証の機会」や「成果の共有」の場を設定することがポイントです。　【研究の実際「視点2」を参照】

小・中9年間をつないで取り組む学力向上

研究成果物はQRコード又は検索から閲覧、ダウンロードができます！

福岡県教育センター　検索

研究の実際　■視点1：育てたい資質・能力の育成を目指す9年間のカリキュラム・マネジメント

ジョイント・カリキュラム

中期	小4	わくわく算数学習 1. 角とその大きさ★◎ 2. 折れ線グラフ★◎	1 8 6	3. 1けたでわるわり算の筆算★◎ ふく習(1) 4. 一億をこえる数★◎
	小5	わくわく算数学習 1. 整数と小数◎ 2. 体積★◎	1 4 9	3. 比例★◎ 復習(1) 4. 小数のかけ算★◎
	小6	わくわく算数学習 1. 対称な図形★◎ 2. 文字と式★◎	1 9 7	3. 分数×整数，分数÷整数★ 復習(1) 4. 分数×分数★◎
	中1	『正の数・負の数』 正の数・負の数★ 正の数・負の数の計算★◎	(26) 5 5	正の数・負の数の計算★◎
後期	中2	『式の計算』 式の計算★◎	(12) 7	文字式の利用★◎ 章末問題 『連立方程式』 連立方程式★
	中3	『式の展開と因数分解』 式の展開と因数分解★◎	(19) 12	式の展開と因数分解★◎ 式の計算の利用◎ 章末問題 『平方根』 平方根★

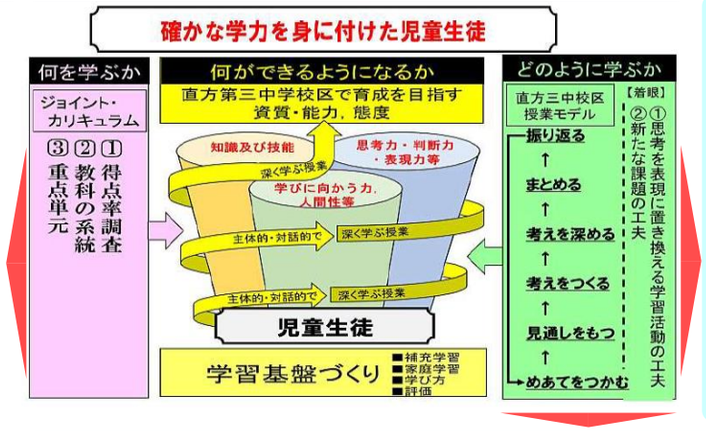
以下の3つの視点から重点単元を設定

◎：**思考・判断・表現**させる場面が望ましい内容

青文字：学力調査で**得点率の低い**内容

★：**9か年の学びにおいて、習得が重要**な内容

研究構想図



着眼①

対話的な学び

各教科等の見方・考え方を働かせる表現活動

作成した短歌へのアドバイスを入力し対話する様子

着眼②

深い学び

知識及び技能の確かな習得を促す二段階の課題設定の柔軟な位置付け

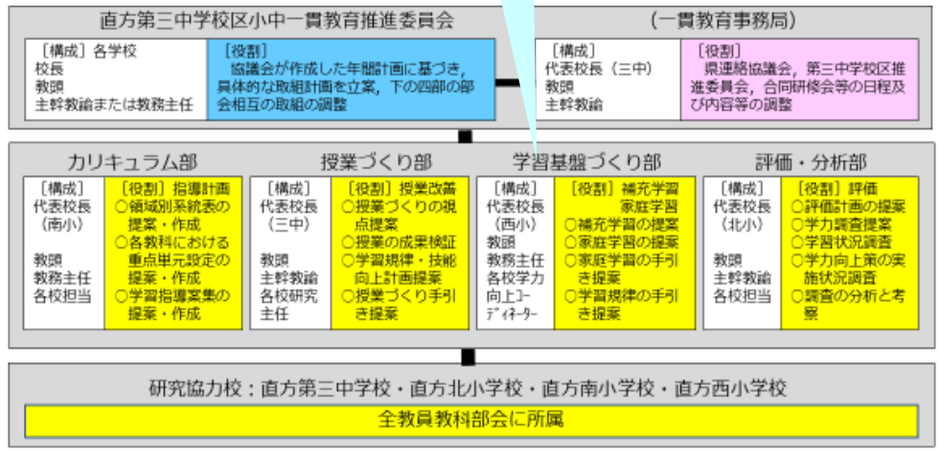
チームの戦略についてポジショニングを変えた課題2に取り組む様子

研究の実際　■視点2：小・中連携による学力向上の推進体制づくり

<学習基盤づくり部>

補充学習、家庭学習、学び方について、実態把握に基づいた「**直方第三中学校区で目指す児童生徒の姿**」や「**評価指標**」を**設定**することができました。

このことは、**迅速な検証・改善の起点**となりました。



【4つの部会に分かれて協議している様子】

4部会の**担当校を設定**し、役割に応じた**具体的な取組**を推進していきました。

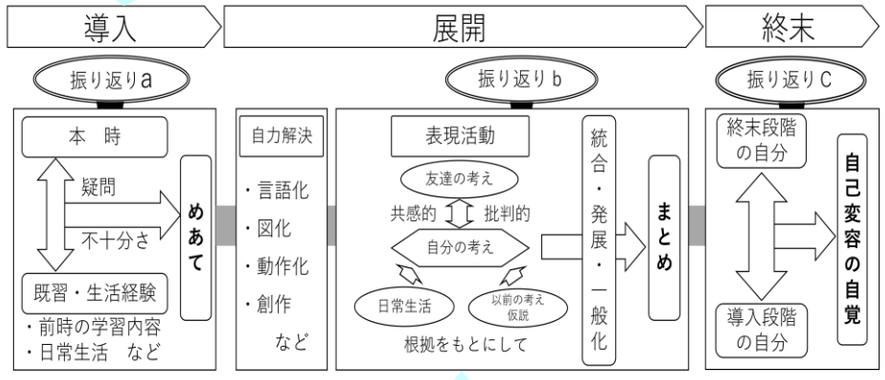
◆ 直方市の実践

◆ 広川町の実践

学習過程における「振り返り」の位置付け

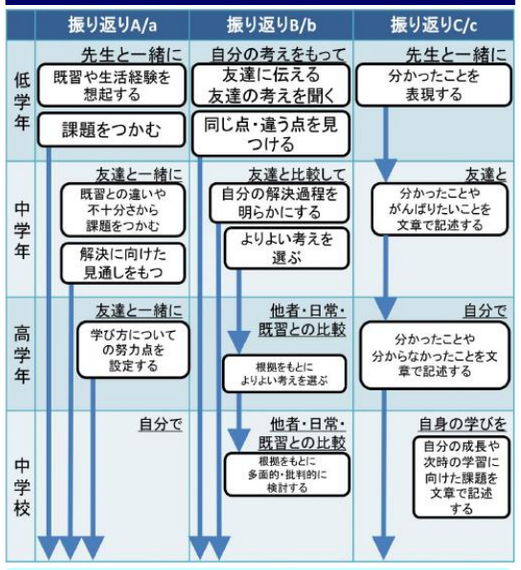
本時の内容と**既習や生活経験から生まれる疑問や不十分さ**を実感させ、本時の学習課題をつかむことができるようにしました。

本時において獲得した**知識・技能や学び方を振り返り、自己の変容を自覚**することができるようにしました。



他者の考え、日常生活、これまでの学習等と比較しながら、**根拠をもとに話し合い、統合・発展**させたり、**一般化**させたりして学習のまとめを行うことができるようにしました。

振り返りの系統性のキーワード



小・中9年間で「振り返り」を大切にした実践をするために**キーワードを抽出し系統化**しました。また、系統化することで、同じ活動でも**発達段階に合わせて質が変化すること**をイメージしやすくしました。

研究主任を中核に小学校４名中学校５名で構成

見方・考え方を働かせる活動構成を工夫した授業づくりの究明
- 研究構想の作成と授業実践
- 単元及び１単位時間の授業モデル（広川スタンダード）の作成及び推進

資質・能力（思考・判断・表現）の系統性が見える9年間のカリキュラムの作成

授業改善に向けた児童生徒・教職員による評価・相互分析

授業改善部では、教科部会を位置付け、**中学校各教科担当が重点単元を提案**し、推進しました。

基盤づくり部では、主に**学習規律の定着**と**家庭学習の定着**について検討しました。

主幹教諭を中核に小学校４名中学校３名で構成

研修の基盤づくり
- 検証改善ロードマップの作成と実施
- 全職員の協力体制ができる職員研修の体制づくり

学びの基盤づくり
- 家庭学習・・・9年間の家庭学習モデル
- 学習規律・・・9年間の対話・交流モデル
  共通実践の推進及び検証・改善

教師の学力向上推進体制の評価・分析